

四日市市の子どものたちの 学力・学習状況や生活状況は？

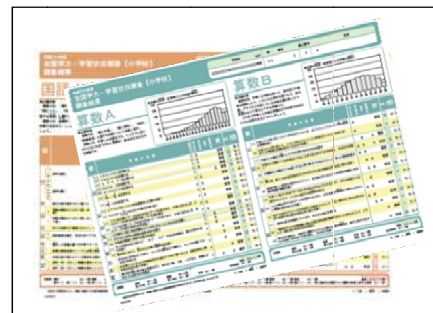
四日市市教育委員会

1 全国学力・学習状況調査について

文部科学省は、小学校6年生と中学校3年生を対象として、学力と学習状況を調査しています。

今年度は4月17日（火）に実施され、その結果は、すでに9月に個人票（※1）や学校だより等でお知らせしています。

調査	調査内容
学力調査	国語AとB、算数AとB・数学AとB・理科（Aは主として「知識」に関する問題 Bは主として「活用」に関する問題 理科は3年ごとに実施）
学習状況調査 「児童生徒質問紙調査」	子どもたちの生活や学習などの意識を調べるもの



（※1）【個人票のイメージ】

2 四日市市の子どものたちの学力について

四日市市の調査結果は、すべての調査において、全国平均以上または同等の結果でした。

小学校では、国語A、算数Aにおいて全国平均正答率を上回りました。国語B、算数B、理科は同等の結果でした。

中学校では、数学A、理科において全国平均正答率を上回りました。国語A、国語B、数学Bは同等の結果となりました。

小学校		国語A	国語B	算数A	算数B	理科
	本市	71 <8.6>	55 <4.4>	65 <9.0>	51 <5.1>	60 <9.6>
	三重県	70 <8.4>	54 <4.3>	63 <8.8>	50 <5.0>	59 <9.4>
	全国（公立）	70.7 <8.5>	54.7 <4.4>	63.5 <8.9>	51.5 <5.1>	60.3 <9.6>
中学校		国語A	国語B	数学A	数学B	理科
	本市	76 <24.3>	61 <5.5>	68 <24.6>	47 <6.6>	67 <18.1>
	三重県	75 <24.1>	60 <5.4>	67 <24.0>	46 <6.4>	66 <17.8>
	全国（公立）	76.1 <24.3>	61.2 <5.5>	66.1 <23.8>	46.9 <6.6>	66.1 <17.9>

※平成29年度から、文部科学省の結果提供（平均正答率）は、本市と三重県は整数値、全国は小数値となっています。数値は平均正答率、〈 〉内は平均正答数となっています。

これからの子どもたちには、学んだ知識・技能を実社会や実生活の中で活用しながら、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究していくことが求められています。

本市では、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図るとともに、身につけた知識・技能を基に情報を収集したり、他者と協働的に課題を解決したりできることを大切にし、子どもたちが「わかった」「できた」と実感できる授業を展開しています。



3 ここがすてき！ここが課題！四日市の子

全国学力・学習状況調査のデータ結果から、小中学校とも全国平均を上回ったところが多く見られました。これは、本市の子どもたちの強みとなっています。一方で、課題も見えてきています。

ここがすてき！

「〇〇」という子が全国より多い！

<学習全般>

- 家で、自分で計画を立てて勉強をしている。
- 家で、学校の授業の予習・復習をしている。
- 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う。
- 5年生（小）、1・2年生（中）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。

<自尊感情・規範意識>

- 自分には、よいところがあると思う。
- 人の役に立つ人間になりたい。
- いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。

<地域との関わり>

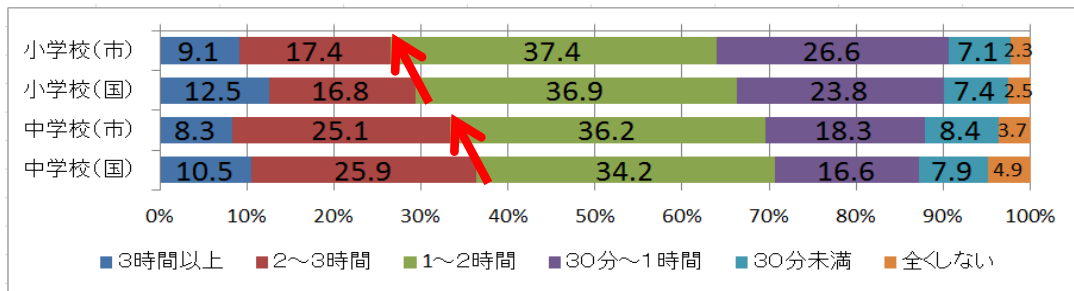
- 今住んでいる地域の行事に参加している。



ここが課題！

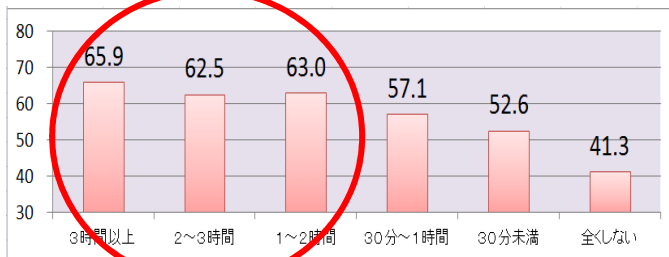
学校の授業時間以外での勉強時間がやや全国より少ない！

Q：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）

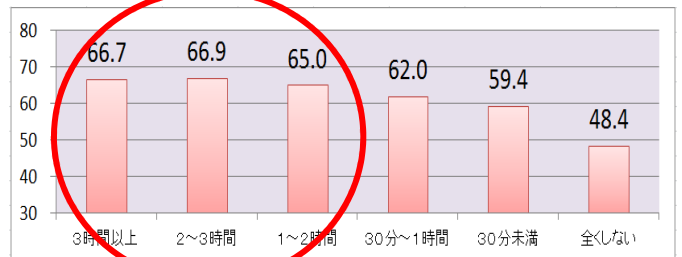


↓ 下のグラフは、学校の授業時間以外での勉強時間の長さ、3教科の平均正答率との関連を示しています。

<小学校>



<中学校>

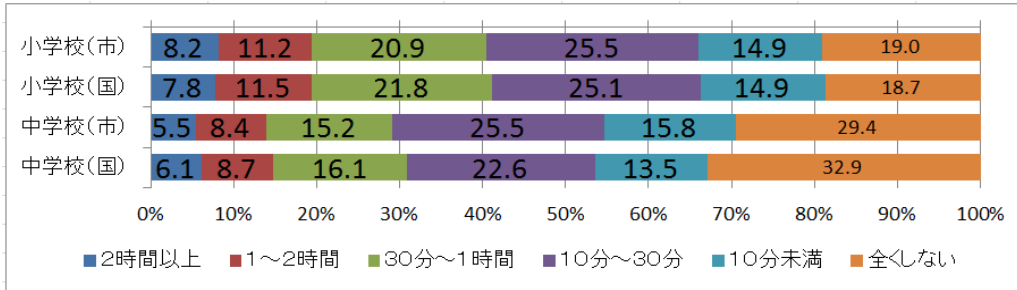


- 小・中学校とも1日当たりの勉強時間が長いと、平均正答率が高い傾向がみられます。
- 「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」という設問においては全国平均を上回っていることから、本市では、「家で学習している子どもは多いものの、一人あたりの学習時間が少ない」ということが分かります。

4 「生活習慣」と「学力」その関係は？

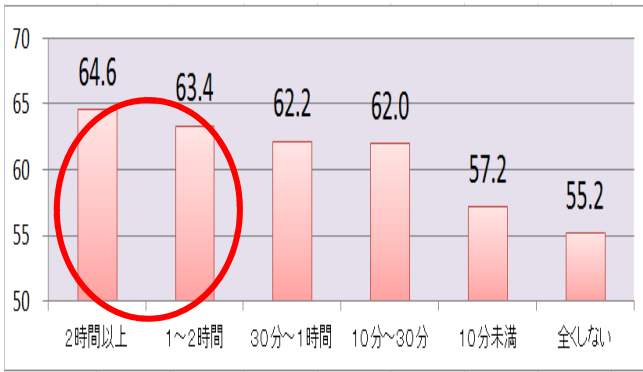
読書

Q：学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、**読書**をしますか。（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

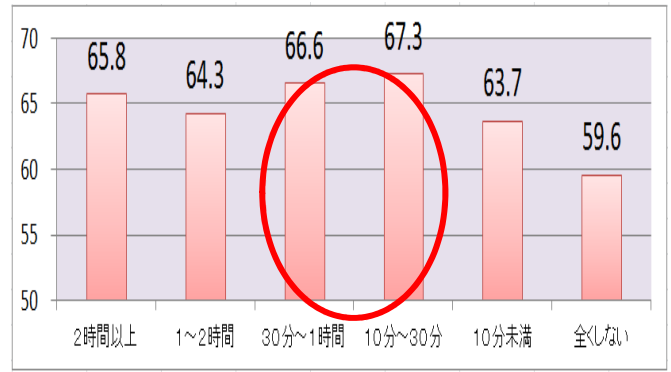


↓ 下のグラフは、学校の授業時間以外での**読書**時間の長さと、3教科の平均正答率との関連を示しています。

<小学校>



<中学校>



- 小学校では、1日当たりの読書時間が長いと、平均正答率が高い傾向がみられます。小学校のうち、読書をする習慣をしっかりとつくっておくことの大切さが分かります。
- 中学校では、部活動が始まったり、学習内容が難しくなったりする中においても、適度な読書の時間を生活の中に位置づけていくことが大切です。

これからも大切にしたいこと

他にも、これまでの全国学力・学習状況調査のデータ結果から、次のような子どもたちの状況が見られると、各教科の平均正答率が高い傾向があります。

<基本的な生活習慣>

- 朝食を毎日食べたり、同じくらいの時刻に寝たり起きたりする。
- テレビゲームをしたり、携帯電話・スマートフォンでの通話・メール・インターネットをしたりする時間が短い。

<自尊感情・規範意識>

- 学校のきまりを守っている。
- ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。

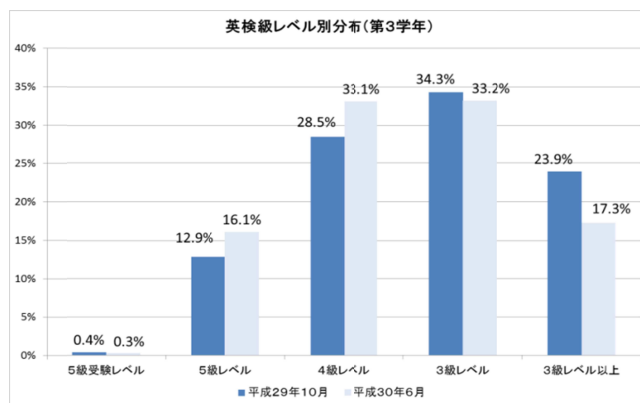
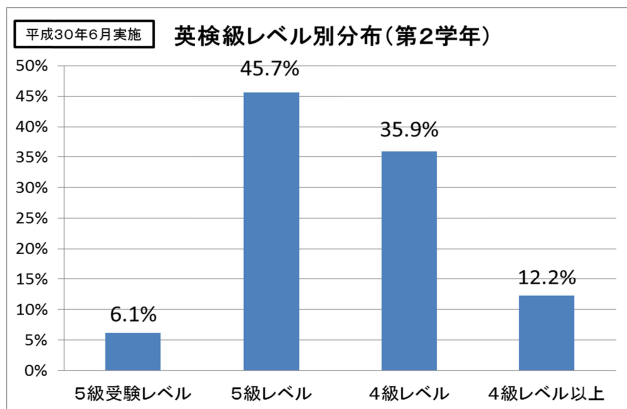
<家庭でのコミュニケーション>

- 家の人と学校での出来事についてよく話をする。 など

5 今後の全国学力・学習状況調査について

来年度は、中学校で初めて英語の調査が実施されます。これは3年に1回実施されるものです。

本市では、国が掲げる「中学校卒業時に、英検3級以上相当を習得できる英語力」を目指し、昨年度から英検 I B A（日本英語検定協会）を導入し、今年度は、6月に中学2・3年生で実施しました。日頃の英語学習の成果の確認や目標設定など、英語学習の動機付けを図ることをねらいとしています。



上のグラフにより、全体的には2年生は5級レベル以上が9割を超えており、1年生の学習内容は概ね身につけていると言えます。また、3年生は6月の時点で4級レベルから3級レベル以上が8割を超えていることから、日頃の子どもたちの学習成果が結果に表れていると言えます。

また、今後の英語の調査では、「話すこと」の調査も実施されます。市内中学校の1・2年生でパフォーマンステスト*を実施して、子どもの「話すこと」の力を把握し、授業づくりに活かしていきます。

※パフォーマンステスト…英語でのやりとり、スピーチなど、実技や演習によるテスト

6 保護者の皆様へのお願い

本市では、全国学力・学習状況調査の結果分析を踏まえて、平成25年度から各学校において、学力向上のため、以下の4つの取り組みに力を入れています。特に、取り組み1と4は、かなり定着が図られてきましたので、現在は、取り組み2と3に注力しています。

学校では、学習習慣の確立に向け、落ち着いて学習できる環境を整え、よりわかりやすい授業を目指し、授業改善等に努めていきます。



- 【取り組み1】 全国学力・学習状況調査問題の活用
- 【取り組み2】 全国学力・学習状況調査の趣旨等を踏まえた授業改善
- 【取り組み3】 学習習慣の確立と学力補充の充実
- 【取り組み4】 継続的な学びへの取り組み

子どもたちの学力向上や健やかな成長には、日頃の生活習慣が深く関係します。近年ますます所持率が上がってきているスマートフォン等の使い方についても、家庭内でルールを決めるなど適切な使用について話し合いをお願いします。

また、家庭学習では、宿題に取り組むだけでなく、その日に学習したことを反復練習したり、予習をしたりして、学力の定着を図るようにご指導をお願いします。

今後とも、学校・家庭・地域が一体となって、子どもたちの「確かな学力」を培い、「健やかな成長」を支えてまいりますので、ご理解・ご協力をよろしくをお願いします。